

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

March 29, 2024

## 豪ドル、対円での荒い値動きに警戒

- ◆豪ドル、金利先物市場は 2024 年半ばからの利下げを織り込む
- ◆豪ドル、対円ではドル円に振らされる荒い値動きに警戒
- ◆ZAR、SARB はインフレ警戒姿勢を維持

### 予想レンジ

豪ドル円 96.00-100.00 円

南ア・ランド円 7.77-8.10 円

### 4 月 1 日週の展望

豪ドルは対円での荒い値動きに警戒が必要となるだろう。27 日に公表された 2 月消費者物価指数 (CPI) は前年比 3.4% となり、市場予想の 3.5% をやや下回る結果となった。同指数は 2022 年 12 月につけた 8.4% をピークに鈍化傾向が続き、市場では今後数カ月のうちに豪準備銀行 (RBA) のインフレ目標レンジ (2-3%) 内に収まると見方が拡大。金利先物市場では 2024 年半ばからの利下げを織り込み始めている。

一方で、2 月 CPI のトリム平均値は前年比 3.9% となり、前月の 3.8% から伸びが加速。財価格の上昇などインフレ圧力もくすぶっており、アナリストからは「インフレ再燃の兆しがある中で RBA は緩和方向へ動きづらい」との声も聞かれた。RBA はインフレ目標レンジ (2-3%) 内まで低下する時期を 2025 年としており、前のめり気味に利下げを織り込み始めた市場とはかなり乖離があるようだが、今後は市場と RBA のどちらが方向性を修正していくかで豪ドル相場の動向を左右していくことになるだろう。なお、来週はイースター休暇明けの 4 月 2 日に 18-19 日開催分の RBA 理事会議事要旨が公表される。

また、豪ドル円の動向を占ううえではドル円相場にも注意が必要となる。ドル円が 1990 年以来の高値を更新した 27 日には、財務省・金融庁・日銀が 3 者会合を開催。会合後には神田財務官が為替介入の可能性も含めて「あらゆる手段を排除せずに適切な対応をとる」と強い円安けん制発言を出しており、市場では円買い介入への警戒感が高まった。ドル円は日銀の緩和的な金融環境が継続するとの観測を手掛かりにした買い意欲も根強いため、来週も思惑的な動きから不安定な推移となる可能性が高い。豪ドル円も含めてクロス円全般に大きな影響を与えることが予想されるため警戒しておきたい。

南アフリカ・ランド (ZAR) は上値の重い動きとなりそうだ。南アフリカ準備銀行 (SARB) は 27 日の金融政策委員会 (MPC) で、政策金利を市場予想通り 8.25% で据え置くことを決定。CPI 見通しを上方修正したほか、クガニャゴ SARB 総裁は会見で「(インフレ目標 3-6%) の中間点 4.5% への回復は信じられないほど遅い」ことに言及した。景気低迷の中でもインフレリスクが高い状態が続いていることもあり、SARB はこれまでと同様にインフレ警戒姿勢を維持。ZAR を巡っては好材料が乏しく、対ドルを中心に上値が重くなるだろう。また、ZAR 円は豪ドル円と同様にドル円相場の動向に振らされる可能性に注意が必要となる。

### 3 月 25 日週の回顧

豪ドルはさえない動き。全般にドル高が強まった流れに沿って対ドルを中心に上値の重さが目立ったほか、2 月 CPI が予想を下回る結果となったことも相場の重しとなった。ZAR も対ドルで弱含む展開となり、対円もつれ安で推移。なお、SARB の金融政策を受けた相場の反応は限定的だった。(了)